

1日に2,500人以上が訪れる人気サイトが教える
“いじめの生の声”を完全ドラマ化

アナタが変われば、クラスは変わる…
(傍観者)

中学生篇

いじめと戦おう!

～もしもあの日に戻れたら～



本作について

いじめによる中学生の自殺報道が相次ぎ、全国的に子どもの命や尊厳を守るための取り組みが必要とされています。

いじめはどのようにして起こり、どうすれば防げるのかは保護者や教員にとって大きなテーマともいえます。本教材は、鑑賞した生徒がいじめのメカニズムや対策を自分の身に置き換えて考えることができるドラマ形式の教材です。いじめられっ子の立場だけでなく、傍観してしまっている生徒たちが如何にして、クラスの“いじめの構図”を崩せるかという視点を中心に、いじめ問題全体について話し合うために活用頂けます。

手引き付き

上映時間23分 [C#2615]

DVD 69,300円(本体66,000円)

※消費税の変動により販売価格は変更の可能性があります。

小学生向けの姉妹編もあります

いじめと戦おう!
～私たちにできること～

原案：「いじめと戦おう!」

ホームページ「いじめと戦おう!～対策と克服法～」は、一日に2,500人以上が訪れる人気サイト。いじめの被害者や経験者が投稿する体験談や情報などの生の声が掲載されている。2011年には書籍も小学館から出版され、全国学校図書館協議会選定図書にもなっている。



監修：玉間伸啓

本作の原案、ホームページ「いじめと戦おう!～対策と克服法～」内に相談される、いじめの被害者や経験者からの相談に懇切丁寧に応える管理人。現在は各種マスコミのいじめ特集への寄稿や講演活動等で“生のいじめの現場”の声を伝えている。

“いじめの図式”を崩す=それは“いじめと戦う”新しいカタチ

(加害者、被害者、傍観者)



ターゲット選び

周りの人をおもしろがらせる

エンターテイナーのつもり

周りが変わる事が大切



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>

いじめと戦おう! ～もしもあの日に戻れたら～

プロデューサー 中鉢裕幸／岡部圭一朗／安西志麻
監督・脚本 東條正利
撮影 松丸武彦

制作協力 株式会社オフィス・シマ
企画・制作 東映株式会社 教育映像部

あらすじ



いじめの発生 ～どこにでもある普通のクラス～

中学2年の景の同級生・吉川が、最近クラスの松たち3人組にからかわれている。松が吉川の体育時のごちない動きをからかうのを見て、景も含めてクラスのみんながづられて笑ってしまう。

いじめのエスカレート ～徐々に歯車が狂いだす～

吉川に荷物を全部持たせたり、靴を脱がしてトイレにほおり投げるなど、松たちによるいじめがエスカレートしていく。最初は笑って応じていた吉川も、表情が辛くなってきている。景はいじめのボランティアをしている姉の順子に相談するが…



最悪の結末 ～もしもあの日に戻れたら～

ある夜、帰宅中いじめに耐えかねた吉川は自ら命を絶ってしまう。激しい後悔と共に、どうすれば最悪の事態を防げたのか自責の念に駆られる景。しかし翌朝目を覚ますと、そこはいじめが起こる前の朝だった…

いじめのメカニズムを知る①

KEYWORD 【ターゲット選び】【イメージ操作】

二度と悲劇を繰り返さない為に景は姉の順子に相談し、いじめの仕組みを教してもらおう。それはいじめっ子の行動原理。いじめっ子は、クラスメイトが「いじめられても仕方がない」と思えそうな人を見つけると、そのターゲットの弱点を周囲に知らせて同意を得ているのだという…



イメージ操作



エンターテイナーのつもり

いじめのメカニズムを知る②

KEYWORD 【いじめっ子=エンターテイナー気取り】【周りが面白がらない事】

いじている最中の松の表情はなんとも言えない高揚感に溢れていた。いじめの現場を見る周囲が笑えば笑うほど、調子に乗り出す松たち。景はいじめを防ぐためには周囲が面白がらないところが大切だということに気付く。

いじめと戦う=いじめの図式を崩す

景の行動の変化をきっかけに、徐々に松たちによるいじめはおかしいという雰囲気クラスも変わっていく。

すぐには吉川に対するいじめはなくなるが、クラスメイトが吉川に声をかけるようになって、少しずつ吉川にも笑顔が戻ってきた。果たして吉川の未来にも変化はあるのだろうか…



学習のねらい

- ドラマ内で描かれる「いじめのメカニズム」を知る。
- 自分のクラスに、「いじめの芽」がないか、クラスで話しあう。
- いじめに悩む人の気持ちを想像し、いじめを防ぐ為にはどうすれば良いのか、いじめっ子・いじめられっ子に対してどういう行動が取れるのか考える。

監修者のコメント

「いじめと戦おう!」ホームページ管理人 玉間伸啓氏

このドラマを鑑賞する生徒は、物語が進むうちに自身の気持ちが徐々に変わっていくことに気づくと思います。前半では、いじめに「他人ごと」な傍観者目線だった自分自身が、後半ではいじめをなくそうとする主人公を応援したくなっているんじゃないでしょうか? ではなぜ、そう変わったのか? その心情の変化こそが、いじめを防止するポイントにつながります。そこをぜひ、生徒のみなさんと話し合ってみてください。

